

細かな分業、一層多くの機械、一層大規模の搾取を産み出すであらうし、そしてそれは又以前と同じやうな競争と結果をくり返すにすぎないものである。

三八 進化の尖端に相喰む資本

さて、以上に於いて吾々は如何に生産の手段方法が絶えず變更され革命されるか、又如何に必然的に分業が一層大なる分業を招き、そして機械の使用が一層大なる機械の使用を招き、更に事業の大規模が一層大なる規模を招くものであるかといふことを見る事が出来た。これが即ち資本家的生産をして絶えずその舊軌道から押し出し、そして資本をして彌が上にも労働の生産力を緊張させるところ法則なのである。そして又これが即ち資本に對して暫くの休息をも與へず絶えず「進め！進め！」とさゝやき示唆するところの資本集中の法則なのである。更に又これが即ち景氣不景氣の動搖の間に於いて、商品の価格を必然的にその生産費とさせるところの、前記の例の法則に外ならないのである。

一人の資本家が如何に有力な生産手段をその産業戦場に運び込まうとも、競争は直ちにそれを

一般化さすにはおかないのである。そしてそれが既に一般化された以上は、その瞬間からして彼の資本が有する大生産力の唯一の結果は、以前と同じ価格で以つてその十倍、二十倍、百倍もの生産品をいづれの市場にか向つて送り出さなければならぬといふことである。けれども實際に於いては、大量の販賣による賣價の下落を償ふために、彼は尙ほ數百倍もの販路を求めなければならぬのである。それに今度は又多くの利潤を得んがためばかりではなく、生産機械その他のものが次第に高價になつてゐるのであるからその生産費を回収するためにも、彼はますます多量の販賣を必要として來るのである。更に又その販路の大擴張は彼一人としてのみではなく、競争場裡に在るすべての資本家に取つても同様それは死活問題でなければならぬ。そこには又必然の結果として幾百度幾千度となく繰り返されたところの市場に對する競争が始められる。そして生産機關が有力なものに進歩してゐればるほど、その競争はますます激化し深刻化し擴大されて行くものである。かくして分業と機械の使用とが一層大規模な形態に依つて新たに遂行され進化して行くの外はないのである。ところがこの生産機關の力が如何やうあらうともそれとは關係なしに、競争は常に商品の価格を生産費の水準にまで引下けることによつて、その力から黄金

の玉子を略取しようと努力するのである。即ち、競争が生産を安價にするのと同じ程度に於いて、一層の安價で一層多量の商品を買ひ捌くことが不可抗な法則となるのである。

かくて彼等資本家は自分の努力に依つては何ものをも益することなしに、たゞ同じ労働時間内に一層多量の生産物を生産するといふ義務を負ふだけである。畢竟資本家は資本の利殖について一層困難なる地位に陥ることとなるのである。——以上の如く競争は生産費の法則を以つて絶えず資本家自身を苦しめ、資本家がその競争者に對して作るところのすべての武器は、却つて皆彼自身に向けられて來ることとなるのであつて、その結果彼等はますます厄氣となつて絶えずその競争に於いて勝利者たらんことを計畫し、現在の機械が未だ競争上の時代後れともならない中から早くも高價な新機械を買込み、新しい分業法に依つてその時代の産業戦に於ける尖端を行かんと苦心するものである。

かくの如き熱狂的な躍進運動が、全世界の市場に於いて一齊に起りつゝあることを吾々は想起してみなければならぬ。それは資本の増殖、集積、及び集中のために、分業の進歩と新機械の使用とが如何に激烈に、不斷に、急速に、層一層の大規模を以つて行はれつゝあるかを吾々に教

へてくれるものであらうから。——しかし生産資本の増大と不可分であるところのこれらの事情が、労働賃銀の決定に對して果して如何なる影響を及ぼしてゐるであらうか？

分業が進歩した結果は當然一人の労働者が五人、十人、二十人分の仕事を産し遂げ得ることとなる。従つてそこには労働者間の競争が五倍、十倍、二十倍に増加するといふことを約束する。又分業の進むに従つてその労働は次第に單純化して行くものである。即ち、労働者の特殊な熟練といふものがその價値を失ふ結果を招來するのだ。そして労働者はただ一個の單純な、單調な生産力と化してしまつて、その労働は誰にでも出来るやうなものになつてしまふ。故に競争が各方面から起ることとなる。尙ほ労働がかくの如くして益々單純になりその修業が益々容易になれば、前にも述べた通りその生産費はますます安價となり、従つて労働賃銀はいよゝゝ下落するといふ現象を呈するに至るものである。

かくて労働がますます不愉快なものになれば競争はますます増大し、その賃銀はいよゝゝ低下する一方である。そして労働者は今までよりも永く働くか乃至は同じ時間内に於いて今までよりも多く仕事をするか、いづれにせよ今までよりも多く働いて賃銀の總額を維持しようと努力す

る。それは彼自身の力を以つて（止むなくてはあるが）ます／＼分業の悪結果を増大するに至るのである。そしてその結果は、働けば働くほど労働者の賃銀がますます／＼低下するといふことである。而して機械の力はそれと同一の結果をはるかに大規模を以つて持ち來すものである。即ち、熟練労働を不熟練労働に代へ、男を女に代へ、大人をして子供に代へさしむるものである。

三九 資本集中の犠牲

以上に於いて吾々は資本家同志の間に於ける産業戦の大體窺ひ知ることが出來た。この戦争の特長は労働軍を徴集するといふよりも、むしろそれを解除することによつて勝利が得られるといふ點にある。即ち大將格たるところの各資本家達は、誰が産業兵士（労働者）の最大多数を除隊（解雇）し得るかを競争してゐるのである。尤も彼等及びその御用學者達は、機械のために餘計者となつた労働者はそれ相當の新しい雇はれ先を見つけ出すといつてゐる。けれども、彼等もさすがに解雇された労働者達が直接に新しい産業部門に於いて仕事を見つけ出すであらうとはいはない。さういふ嘘に對しては事實が餘りに明白であるのだ。畢竟彼等が主張することはたゞ労働階級の

他の構成分子のために、——例へば今廢止された産業部門にこれから入らうとしてゐる青少年労働者のために、何か新しい職業が開かれるであらうといふにすぎないのだ。これは如何にも廢物たるところの労働者にとつては甚だ有難いことであるには相違ない！。何故ならば、資本家階級にとつて、搾取さるべき新鮮な血と肉との不足する氣遣ひはないからだ！。死ぬるものは勝手に死なせるに限るのだ！。それでこの事實は、労働者のためよりも、資本家自身のためにより多くの慰藉を與へるものであるにすぎない。若しも賃銀労働者の全部が機械のために亡びるものであるならば、それこそ資本にとつても亦滅亡を約束するものである。何故なら、資本は賃銀労働なしには決して存在し得ないものであるからだ。

しかし、今假りに機械のために直接その仕事を奪はれた人々、並びにその産業部門に入ひれる機會を待つてゐる青少年労働者達が、みんな悉く新しい職業を見つけ出したものとする。その場合、彼等は果して元の仕事と同じだけの賃銀をその新職業から得られるものと信じられるだらうか。しかしそれはあらゆる經濟法則に反することであるのだ。近世産業が常に複雑な高級な仕事から、單純な低級な仕事に移つて行くことは既に論じたところである。然らば機械のために放り

出された労働者の群が、賃銀の一層低い方面より外に隠れ場の見出だされぬことは論ずるまでもないことであらう。只こゝに例外だとされるものが一つある。それは機械そのもの、製作に使役されるところの労働者である。あらゆる産業界に於いて機械の使用とその消耗がより多くなればなるほど、機械製作のためにより多くの労働者を使役することとなるであらう。そしてこの部門に使はれるところの労働者は、熟練あり教育ある労働者達であるといふのである。

さて、以上の主張は以前に於いても半面の眞理をしか有しないものであつたが、一八四〇年以後に於いてはその眞理らしい外観をも失つてしまつてゐるものである。何故ならば、今日に於いては種々雑多な機械が、幾種そのもの、製造のために廣く使用されることになつたので、こゝに於いても亦機械工場に使はれる労働者はたゞ精巧を極めた機械の傍に立つて、甚だ馬鹿けた機械の役を務めるに過ぎないからである。——但し、機械のために解雇された男工の代りとして、その工場では恐らく三人の子供と一人の婦人とを雇ひ入れることであらう。しかし解雇されたその男工の以前の賃銀は、一人の婦人と三人の子供とを養ふに足る筈のものではなかつたらうか？ 最低賃銀は労働階級の存続と播殖とを遂行させるに足る筈のものではなかつたらうか？ 然りと

せばかのブルジョアジの言ひ草は一體何を意味してゐるのであるか。それは外でもない。労働者の一家族の生計を營むために、今では以前に比べて四倍の人命が消費されてゐるといふことである。これを要するに、生産資本が増大すればするほど分業と機械の使用がますます擴張され、分業と機械の使用が擴張さればされるほど労働者の間に於ける悲しき競争がますます烈しくなり、その賃銀がますます低下するといふことである。

尙ほ右の外に社會のやゝ上層からは、小企業者や小資本の利子で生活してゐた人達が労働階級の中へと落ち込んで來つゝあるのだ。彼等は名々の腕を労働者の腕と並べて差出すより外にその生活の道を有つてゐない。この結果は仕事を求めるために差出される腕の林が段々に茂つて來ることの意味してゐる。と同時にその腕は次第々に瘦せ細つて來るではないか！——それはとに角、彼等は何故その中産階級の地位から顛落しなければならなかつたであらうか？ それは、成功の第一要件が大規模の生産組織の中に含まれてゐる今日に於いては、彼等小企業家乃至小資本家達はその競争に堪え得ない（必然的）結果に外ならない。又資本が一般に大きくなればその利子が低くなること、従つて小資本家は最早や利子だけでは到底生活出來なくなること、従つて彼

取つては最早や何等の社會的價値をも持つてはゐない。彼等は皆等しく労働器具であつて、たゞその年齢と性にと依り使用上に費用の多少を生ずるだけである。

工場主に依る労働者の搾取が終るや否や、即ち、彼等がその労働賃銀を受取るや否や、今度はブルジョアジーの他部分、即ち家主、小賣商人、質屋などが彼に襲ひかゝる。

従來の中産階級の下層、即ち小工業家、小商人、寄生生活者、職人及び農民、すべてこれらの諸階級は漸次プロレタリアに没落する。その原因の一半は彼等の小資本が大産業の經營に引き足らないで、より大なる資本家との競争に負けるからであり、又他の一半は、彼等の技術が新しい生産方法に對して價値が無くなるからである。かくてプロレタリアは國民のあらゆる方面から徵募ちゆうぶされて行く。

プロレタリアは、種々な發達段階を経過する。彼等のブルジョアジーに對する××××××××××と共に始まる。

最初は個々の労働者が、次には一工場内の労働者が、次には一地方に於ける一労働部門の労働者が、直接に彼等を搾取する個々のブルジョアに對して戦ふ。彼等は又ブルジョアの生産關係に

對して攻撃を向けるのではなく、生産器具そのものに對して××××××××××。即ち彼等は外國の競争品を破壊し、機械を××××××××××、工場を××××××××××、かくて、彼等は既に亡びた中世労働者の地位を回復さうとする。

この段階に在つては、労働者はまだ全國に散在し、競争のために分裂した集團である。當時、労働者が多數團結の實を示した場合があるのは、それはまだ彼等自身が結合したのではなく、ブルジョアジーの結合した結果である。ブルジョアジーは、彼等個々の政治的目的を達するために、全プロレタリアを運動に捲き込んだのであり、そして一時はそれを爲し得るのである。故にこの段階に在つては、プロレタリアは自分の敵と戦はないで、自分の敵の敵、即ち××××××××××の遺物、大地主、非工業的ブルジョア、小ブルジョアなどと戦ふ。かくて全歴史的運動は、ブルジョアの手に集中され、それに依つて獲得されるすべての勝利は、××××××××××の勝利である。

しかるに産業の發達と共に、プロレタリアはその數を増加したばかりでなく、益々大なる集團に押し堅められ、従つてその力が増大し、又彼等がその力を感知する。機械が次第々々に労働の差異を消し、殆んど到るところに於いて賃銀を同一の低い水準に引下げると同時に、プロレタ

ブルジョアジーのための黨人

リヤの利害、プロレタリアの内部に於ける生活状態が次第々々に平均して来る。ブルジョア同志の間に於ける益々激烈な競争、及びそれから生ずる商業恐慌が、愈々労働者の賃銀を動搖させる。不可避の勢ひを以つて益々急激に發達する機械の改善が、愈々労働者の全生活状態を不安にする。個々の労働者と個々の資本家との衝突が、次第々々に兩階級の衝突たる性質を帯びて来る。そこで労働者は資本家に對して聯合を作り始める。彼等は労働賃銀を維持するために結合する。彼等は時々起る反抗運動のために、自ら準備すべく、永續的の××××××××。闘争は各地に××××××××となる。

労働者は折々勝利を得るが、それはたゞ一時的に過ぎない。彼等の闘争の眞の効力は、その直接の結果に在るのではなく、たゞ労働者の團結が絶えず擴大するところに在る。労働者の團結は、大産業が作り出した交通機關の發達に依つて助長され、諸地方の労働者をして互ひに結合せしめる。これは同性質をおびた地方的闘争を一國的闘争に、一の階級闘争に集中せしむるためのみの結合である。然し、階級闘争は必ず一の政治闘争である。若しこれがアノ道路の不便な中世の市民であつたなら、かういふ團結のためには數百年を要したであらうに、鐵道のある近代のプロ

レタリアは僅々數年の間にそれを成就したのである。

プロレタリアのかゝる階級への組織、従つて又その政黨への組織は、又絶えず労働者自身の競争のために破壊される。けれども、それは又必ず勃興して、一層強く、一層有力となる。彼等はブルジョアジーの分裂を利用して、立法形式に於ける労働者の特種の利益の認識を強要する。イギリスに於ける十時間労働法の如きが即ちそれである。

舊社會に於ける一般の諸衝突は又種々の點に於いてプロレタリアの發達を促す。ブルジョアジーは不斷の闘争の中に立つてゐる。初めは貴族と戦ひ、後には産業の進歩と共に利害が衝突するところの、ブルジョアジーの他の部分と戦ひ、又常にあらゆる外國のブルジョアジーと戦ふ。かういふいろ／＼の闘争に於いて、ブルジョアジーはプロレタリアに訴へ、その助力を借る必要がある。従つてプロレタリアを政治運動に引入れることを必要とする。故にブルジョアは自分の教育要素、即ち自分と戦ふべき武器をプロレタリアに供給することになる。

更に前にいつた通り、支配階級の多くの構成部分は、産業發達の結果、プロレタリアに落ち込むか、或は少なくともその生活條件を脅威される。彼等が又多量の教育的要素をプロレタリアに

供給する。

最後に、この階級闘争が愈々決定的時期に近づく時には、支配階級の内部、全舊社會の内部に於いて分解過程が急激に、且つ尖鋭な性質を帯び、支配階級の一小部分は自ら分離してXX的階級、即ち未來をその手に握つてゐる階級に投ずる。故に、昔貴族の一部分がブルジョアに投じたと同じやうに、今はブルジョアの一部分、殊にこの全歴史的運動を理論的に理解し得るに至つたところの思想家的ブルジョアの一部分が、プロレタリアに投ずる。

今日、ブルジョアと對立するすべての階級の中で、プロレタリアのみがXXXXXXXX階級である。他の諸階級は大産業のために衰頹し滅亡するものであるが、プロレタリアはこの大産業の最も特殊な生産物である。

中間階級、小工業者、小商人、職人、農民等も中間階級としての存在を没落から維持するため、皆ブルジョアと戦ふ。故に彼等はXXXではなく、保守的である。否、むしろ彼等は反動的である。彼等は歴史の車輪を逆轉せんとするものである。若し彼等がXXXであるとすれば、それは彼等に迫りつゝあるプロレタリアへの移行を認め、かくて、現在の地位を防衛するの

でなく、將來の利益のために彼等の本來の立場を捨て、プロレタリアの立場に立つた時である。

舊社會の最下層に在つた不活動で墮落したムンペンプロレタリアも亦場合に依つてXXXXXXXXXXXXにすべり込んで来る。けれども彼等の生活状態から、彼等は喜んで反動的XXXXXXXXXXXXに買収されるだらう。

舊社會の生活條件は、今は既にプロレタリアの生活條件の中に否定されてゐる。プロレタリアは無財産である。彼等がその妻子に對する關係は、最早やブルジョアの家族關係と少しの共通點をも持つてゐない。近世的工業労働、資本の下にある近世的XXXX、イギリスはフランスに同じく、アメリカはドイツに同じく、すべてプロレタリアからその國民的特徴をXXXXXXXXXXXX。法律、道德、宗教は彼等に取はつて皆悉くXXXXXXXXXXXX、XXXXXXXXXXXX。XXXXXXXXXXXX隠されてゐるのである。

從來政權を握つたすべての階級は、全社會を自分等の利得の條件に従屬させて、そして自分等の既得の地位を確保しようとした。しかるにプロレタリアは、從來の自分の所得方法を、従つて

ブルジョアジーのための墓掘人

建制度並びに絶対××××の支配の下に自らを階級として構成した段階と、既に彼等が階級として構成され、社會をブルジョアの社會にまで形成するために、封建支配と××××とを顛覆したところの段階を。これらの段階の中第一のものは、最も長期に亘り且つ最も多くの努力を必要としたものであつた。ブルジョアジーも亦先づ封建諸侯に對する部分的團結を以つて始めたのである。

ブルジョアジーが都市の自治團體コンミューンから、それ自らを階級として構成するに至るまでに辿つたところのそれらの歴史的段階を跡づけるためには、多くの探究が試みられてゐる。

しかしながら、我々の眼前に於いて、プロレタリアが階級として彼等の組織を形作りつゝあるかの同盟罷工ストライキ、團結。その他の形態を如實に理解する點に至るや、彼等の中のある者は現實の恐怖に捉はれある者は又先天的なる侮蔑キバツを誇示するのである。

抑壓されたる階級は、階級對立に基づくところのあらゆる社會の生活條件である。されば、抑壓されたる階級の解放は、必然的に一の新たな社會の創造を含んでゐる。抑壓されたる階級が解放せられ得るためには、既に獲得せられたる生産力と、當該社會關係とが最早や相互に兩立し

得ざるに至れることを必要とする。あらゆる生産器具の中に就いて最大の生産力たるものは、實に××××××そのものである。階級としての革命的要素の組織は、總じて舊社會の胎内に於いて發展するを得たりし一切の生産力が既に存在することを前提とするものである。

このことは、舊社會の没落の後には、一の新たな政治的權力としての一の新たな階級支配が起るべきことを意味するのであらうか。否。

労働階級の解放の條件たるものは、實に一切の××××××である。それは恰も、第三の身分たりしブルジョアオールド等級の解放の條件が、一切の身分の廢止であつたのと同様である。

労働階級はその廢止の途上に於いて、舊市民社會に代ふるに、階級と階級對立とを排除するところの一の結合を以つてするであらう。而して最早や固有の意味に於いての政治的權力なるものは存在せざるに至るであらう。何んとなれば、政治的權力なるものは、正しく市民社會に於ける階級對立の公的表現だからである。

それまでの間、プロレタリアとブルジョアジーとの間の對立は、××××××××××××、その最高の表現に於いては一の全體××××××××××××××××××××××××。とも角階級の對立を基礎

とする一の社会が、最終の解決として、兇暴な矛盾に、××××××××××に導かれるといふことが、果しておどろくべきことであらうか。

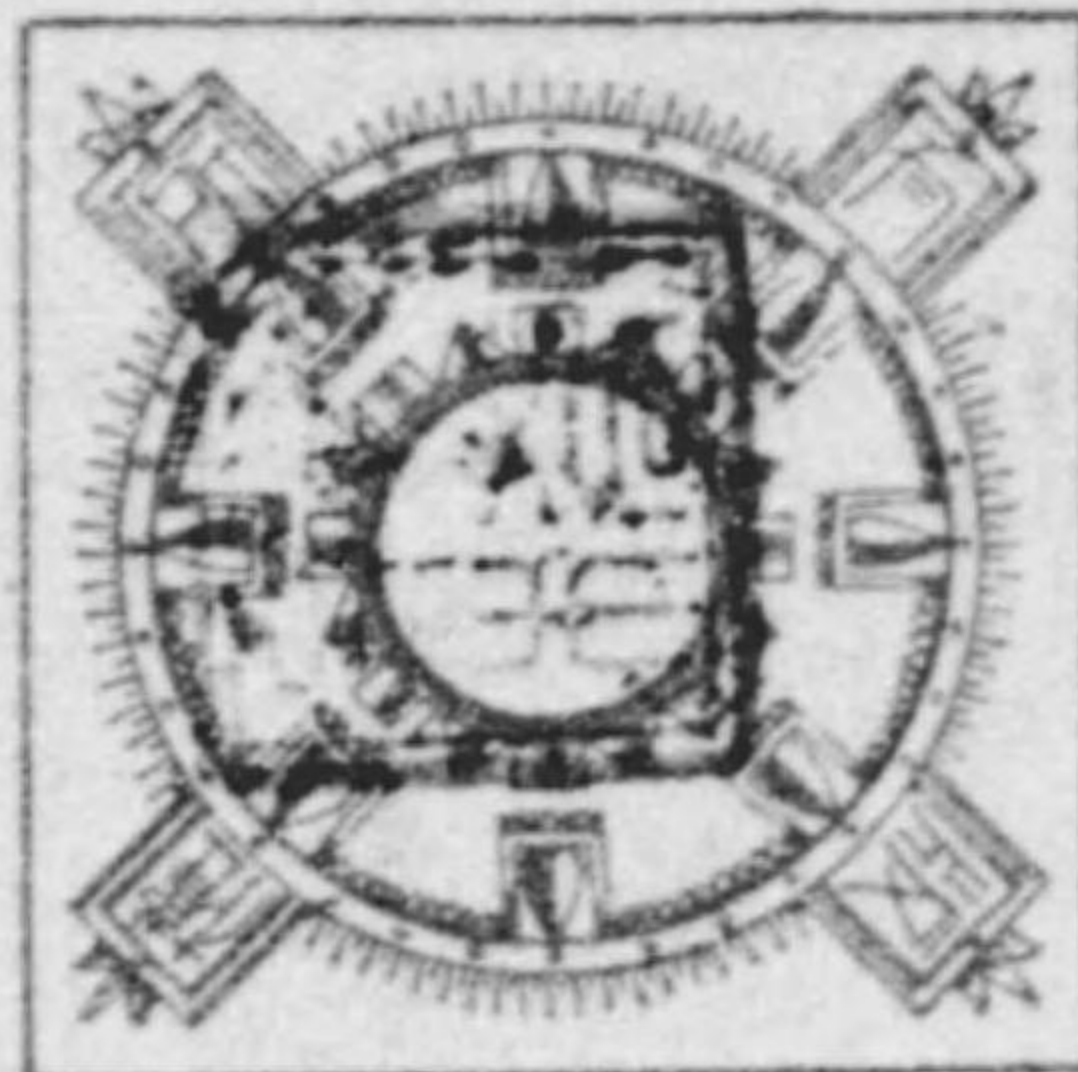
社会運動は政治運動を排斥するものだといふ勿れ。それが同時に社会運動ではないやうな政治運動は断じて存在しない。

最早や階級も階級対立も存在せざるが如き状態の裡に於いてのみ、始めて社会進化は政治革命たることを止めるであらう。その時に至るまで、社会の如何なる總體的變革の前夜に於いても、社会科学の最終の言葉は常に次の如くであるであらう。

——「闘争か然らずば死か。××××××戦ひか然らずば無か。問題は否應なしに右の如くに課せられてゐる。」(マルクス)

—終—

著作権所有 定價金五拾錢



昭和六年二月五日印刷
昭和六年二月十日發行

「マルクスは叫ぶ奥附」

譯述者

矢橋 三子 雄

發行者

松 嶋 俊 平

印刷所

東京市神田區錦町三丁目九番地
鶴太田印刷所

發賣所

東京市神田區錦町三丁目
大衆出版社
東京市神田區表神保町十番地
大進堂書店

◇ 書叢アリタレロプ本日 ◇

<p>第一編 我等の敵を倒せ <small>(既刊)</small></p>	<p>第二編 農民の叫び <small>(既刊)</small></p>	<p>第三編 農民の子 <small>(既刊)</small></p>	<p>第四編 マルクスは叫ぶ <small>(既刊)</small></p>	<p>第五編 どん底の叫び <small>(近刊)</small></p>
<p>發賣禁止</p>	<p>近時世態の趨移と共に益々深刻化しつつある全農民の悲痛なる叫びを見よ！本書は例證を挙げ、全農民の社會に訴ふる叫び聲だ。</p>	<p>始めて世に問ふゴルキー原作の「農民の子」果たしてゴルキーは農民の子に託して何を社會に訴へ叫ばうとしたか。是非何人も一讀を進む。(小説)</p>	<p>マルクスは叫ぶ、全世界に向つて叫んだマルクスの思想を解剖し、その學說を平易に説いたのが本書だ。眞に彼を知らんとする者は讀め。</p>	<p>どん底に喘ぐ幾百千萬同胞の悲痛なる叫び聲だ。ブル、プロ派を論せず、先づ彼等の悲痛な叫び聲に耳を傾け、我等同胞の上に涙せよ。</p>

九目丁三町錦 大衆出版社 區田神市京東

禁安

319

